

2009. 7. 1 発行 不老川流域川づくり市民の会 代表 相馬和彦
 連絡先 Tel04-2965-1741 <http://furougawa.mods.jp/>



伐採前



伐採された大エノキ（関連記事3ページに）

不老川の価値

この5月の連休に、妻と不老川の堤防に沿って権現橋付近から入曾橋まで歩きました。この区間は土手で、草花と木々の豊富なところで、このような川が東京近郊の市内を流れていることはそう多くないと思います。妻もこんなところがあることを再認識したようです。今回は新緑を楽しみましたが、サクラも多く、毎年美しく咲き誇っています。水質もまだ十分ではありませんが、最近ではよくなってきており、魚も棲みはじめています。この日もとららず公園付近ではモツゴが泳いでいました。洪水対策の河川工事が下流の新河岸川合流点からここ数年行われ、それに伴って落差工が撤去されて魚がのぼってきており、最近ではアユも下流では見られるようになってきました。

ただ、工事の済んだ所はコンクリートや環境ブロックといわれるものなどで護岸され、川というより見た目では放水路のようになってしまっており、フェンスで囲まれています。それだけに、今後の河川工事では、土手で草花と木々のある所は自然に触れられる身近な環境として、大事にすすめてもらいたいものです。（中牟田）



H.T.

クサヨシ

葦簀（よしず）にするヨシ（アシともいう）は高さ3mにもなるが、こちらは1mぐらいで、名前の通りいかにも草という感じ。梅雨時、大森調節池では花穂がきれいです。

どこが、なにが問題なのか

河川改修工事検証でみつけたもの

4月26日、今福堀合流付近から河川改修が行われた不老川をいろいろな角度でチェックしながら歩いた（会員14名参加）。驚きや発見も多く、スライドを見ながら問題点や良くなった点を皆で話合った

砂久保橋のたもとでは、2本の大エノキのうち1本が伐採されていた。川越県土との数回に渡る交渉の結果、やっと残すことに合意していたのだが。ランドマークとしての見事な姿が失われた。

福原小、中学校の裏手は、生徒たちが遊べる親水スポットとして覆土された草地の土手が計画されていたが、むき出しのブロックが敷き詰められたままである。どう使ってもらいたいか、想いが感じられない。

武蔵野橋上流の親水エリア。緩やかな土手でフェンス無し。川に近づけ水際を歩けることが出来る点で、よかったのでは、と思える場所である。

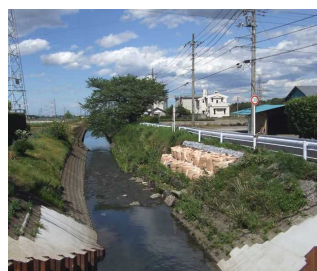


魚にとつても
棲み心地良くなるかな

風情のある農の風景を創っていた14本の小橋は数が減り、頑丈な黒いガードレールが付いたものものしい橋に変わっていた。

夫婦エノキ付近。右岸の林が残ったのはほんとうによかった。当面地元の会員がゴミ拾いなど管理をすることになった。

夫婦エノキの寸前で工事はストップしている。この先どうなるのだろうか。エノキを残すために右岸よりへ河道変更が必須である。

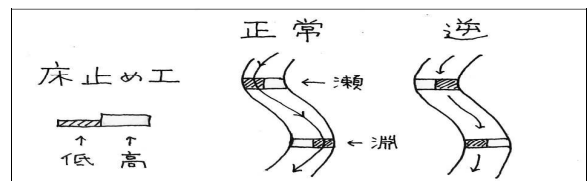


草刈橋の上流区間。左岸は納税猶予対象地あることなどから用地取得に期間がかかる区域で工事が連続せず、右岸は連続した工事なので川幅の狭い所と広い所が交互になっている。狭いところは工事前より狭くなっており、緊急洪水対策としての工事が逆に洪水の危険度を高めているのではないか。

護岸が幾何学的カットで生命の気配も見えず、呆然としてしまう。やがて草の生えるブロックと、植物が殖えていくだろうか。時間かけての自然回復を期待できる場だということだろうか。



川の流れを蛇行させるために半分は低い床止め工を設置しているが、川の形状を考えず機械的に交互に置かれている。武蔵野橋上流では瀬と淵が逆に付けられ、不自然な流れとなっている。また、床止め工自体がくずれの恐れあり、要監視である。



川幅が広がった分、川の自由度が増し、瀬が作られ、草が茂っていくという変化が見られる。水はどの程度必要であろうか、瀬切れはあっていいものなのか。今後水量の問題が検討課題となろう。

一連の河川工事で落差工が外されたので、川越と狭山の境あたりまで魚の遡上が確認され、アユの姿を追うことが出来た。他に、コイ、オイカワ、モツゴが観察された

ブロックから帰化植物が顔を出している。年月と共に繁って行くであろう。アカメ

ガシ、ケヤキ、ヤナギなどの若木が水際に出はじめているが、流れに影響はないか。

工事後はフェンスで囲われたような川が続く。川面への視線がさえぎられ、川辺を気持ちよく歩けなくなった。

全体を通して見て、多自然川づくりとして私たちが求めた工事と異なっているのはどうしてだろう。「改修工事は行政と市民の協働で」という理念が生かされず、設計への私たちの関わり方も今一つだった。設計

だけでなく 工事に対してもチェックしていく必要があるが実現出来なかった。川との距離がありすぎた。

どのような川にしたいのか、皆でイメージをきちっと作って、粘り強く提案していく必要がある。が、それだけでなく、大事に守り育てたい、または、蘇らせたい場として、川に地域の人々が関心を持ち、日常的にかかわっていけるようになることが大切だと感じた。それは、地元の人たちとどれだけ繋がっていけるかに懸かっていると思う。一番難しいことではあるが。 (田上)

エノキが残ったと言える？

市民合意とは —

平成18年3月、不老川の工事で砂久保橋の大エノキが伐採される事を知り川越県土事務所に残すように申し入れたが、聞き入れてもらえなかった。橋の工事は道路部の管轄だから道路部に申請するようにとのことだった。そこで、数回の現地調査、資料収集を行って平成18年8月25日に38頁に及ぶ“砂久保橋河畔樹保全に関する提案書”を作成し川越県土事務所道路部に提出・説明した。その結果、同年9月21日道路部長より、「河道を曲げてエノキは残すことに決定した」と連絡があった。その後工事に支障があるので、剪定をしたいとの連絡があり、樹が残ることであればと了承した。平成19年2月に見た時は無惨な剪定であったが2本残っていた。工事終了区間の視察で4月に行ったら1本が切られており、これが県民の要望を受け入れて樹木を残したことになるのかと、会員一同開いた口が塞がらなかった。

埼玉県は現在、緑と川の再生事業を大々的に行っており、その要点は「県民申請を受け、県民と細部に渡り協議し、合意の上で工事を実施し、その後の維持管理は県民が行う」となっており、お互いの信頼関係の上で成り立つものである。どのような理由で合意事項を反古にしたのかわからないが、県民との合意事項を勝手に破って事業を行うことが許されるものだろうか、憤りを禁じ得ない。 (相馬)

5年目の山王塚

花に出会う喜び

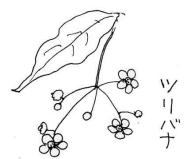


ヤマホトトギス

山王塚緑地の管理を本格的に始めて5年目に入りました。その1年前の樹木調べで木の種類の多さに驚いたものです。その時、たわわに実をつけていた桑の木は、今年も通路に黒く熟した実を落としています。

外側は刈払い機で整理しますが、内側の背の高さほどに繁ったアズマネザサは、幼木や低木を守るために手で刈っていきました。今は見通しも良く、風が気持ちよく通ります。この春、間伐で明るくなった場所に、チゴユリ、ホウチャクソウが姿を見せました。陽の当たる西側の縁にはニンソウに加えアマナ。アマナは5年目ではじめて見かけました。昨年見つけたヤマホトトギスも花の時期を待っています。

足下にははらはらと白いものが音を立てて落ちてきます。見上げると満開のウワミズザクラ、それも見事な大木です。また、ツリバナが風に細い実を揺らしています。ここには野山に行かなければ見られないと思っていた植物が数多くあるのです。



ツリバナ

管理作業は決して楽ではないけれど、豊かな生態系を持つこの林をいつまでも見続けていきたいと思うこの頃です

(村手)

川歩き便り

不老川入曽おすすめ散歩道・写真展

狭山市入曽公民館階段ギャラリーにて、5月1日から31日まで不老川川歩きクラブの、月1回の散歩コース(公民館裏手からとしとらず公園まで)の写真展を開催しました。川歩きを始めて4年目になりますが、これからも歩きます。

見に来てくださった方々から寄せられた感想を、一部紹介します。「不老川と草木がおりなす風景はすばらしく、また、貴重です。残したい自然です。」「不老川がこんなに緑があり、私も散歩コースにしていますが、とても誇りに思います。」「不老川を丁寧にみつめている周辺の皆様の暖かい心を感じました。」「マップがステキ。」「生き物のいる場所は、いつまでも大切にしたいですね。」

◇ 狭山市役所1階ロビーにおいて環境展が6月15日から30日まで開かれました。NPO さや環の川分科会として、入曽公民館での写真とマップを展示しました。

総合学習へのサポート

狭山市立山王小学校4年生の授業で不老川についての話を聞きたいということで、6月17日遠藤・村手が伺いました。

子どもたちはとても熱心で、ゴミに関する質問が多かった。不老川の水は狭山丘陵からお台場までつながっていることや、川が汚れた原因、きれいになってきたわけなどを話しました。

私たちが管理している山王塚市民緑地に隣接している学校でもあるし、今後も仲良くしていきたいものです。

鳥になろう 魚になろう！

大森の池まつり

10回目を迎えた今年はカヌーを20艘に増やし、子どもたちにカヌー乗りを楽しんでもらいます。

日時:8月30日(日) 10:00~15:00

場所:大森調節池(入間市宮寺)

参加費:100円(保険料)

持ち物:飲み水、昼食、着替え(水に入れる用意)

イベント:カヌー、ボート、魚とり、ザリガニとり、

子牛とふれあう、水鉄砲づくり、演奏会

出店(ジュース、パンなど)など

主催:不老川流域川づくり市民の会、

大森の池まつり実行委員会

大森調節池の自然を守る会

問い合わせ:相馬(04-2965-1741)

川づくりに参加しませんか

定例会:毎月第3土曜日 13:30~

年会費:1,000円 詳細は下記世話人まで

入間市:相馬 04-2965-1741

狭山市:村手 04-2957-3425

所沢市:小黒 04-2923-8946

川越市:高木 0492-49-9828

流域情報

新河岸川流域水質一斉調査 6月7日

「身近な川の一斉調査」が行われた。

例年通り入間市、狭山市と手分けをして17ヶ所を測定しました。今年は、子どもたちも参加して、久しぶりに生活クラブ狭山生活館で採取した水のバックテスト等を行なった。全国の調査結果は秋頃発表の予定です。

河川見学会

新河岸川連絡会では8月9日(日)に不老川下流の河川改修工事あとを見学することになりました。

詳細は相馬まで(Tel04-2965-1741)

またまた大量の汚水発生

入間市内の当会会員が、去る、6月7日の水質検査の際、コストコの汚水流出を発見し、入間市市役所と埼玉西部環境事務所に連絡した結果、一応改善されました。しかし県としては、その事を重くみて6月22日付けの業務改善命令(期限8月24日)を同社に出したと連絡があった。

今後も気をつけて監視しなければならない。

編集後記

先日、辻井伸行という20歳の青年が、アメリカのヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝した、と報じられた。同氏が「川のささやき」というピアノ曲を作曲していることを知り、早速CDを購入した。清らかな流れを彷彿とさせる澄み切ったきれいな曲であったが、本誌「川のささやき」もこの曲にあやかって、清らかな流れのような情報発信を続けたいものである。(K・S)

